

三豊市総合計画策定審議会（第2回）

開催：令和5年7月5日（水）

1) 市民意向調査等の集計・分析について

① 市民意向調査

集計方法	単純集計、属性別クロス集計
分析の着眼点	<ul style="list-style-type: none">・ 前回と同じ設問と比較した市の施策の効果の検証・ 新規設問による把握できていない市民の現状・ニーズの検証 (SDGs・脱炭素化など近年注目される新しい分野、コロナ対策期を経たうえでの生活意識の変化等)

② 高校生・高専生向けWEBアンケート

集計方法	単純集計、属性別クロス集計
分析の着眼点	<ul style="list-style-type: none">・ 市外在住者/市内在住者の区分による意識の違いの検証・ 市民意向調査と同じ設問で年齢による意向の違いを明確化・ 次世代を担う高校生特有の設問に係る現状・ニーズの把握 (今後の進路、県外転出とUIターン、結婚・子育ての意向等)

* 高校生・高専生向けWEBアンケートの概要 *

【特徴】

- ・市内在住者向け、市外在住者向け、両者共通の設問を設定。

【概要】

- ・市内在住者向けの設問「卒業後にどこに住みたいか」→8割弱の生徒が市外に出たいとの意向。
その後三豊市に戻りたいと思うタイミング→戻る意向がわずか1割強。
- ・住む場所を決めるに当たって重視する点→「1.働きたい企業があること」「2.買い物や外食できる場所が多いこと」。
- ・本市で魅力を感じ、就職したい企業があるか→「ある」がわずか2%、「知らない」が全体の4割を占める。高校生に対して市内企業をもっと知ってもらう取組が必要。
- ・結婚・子どもについて→いずれも概ね6割がそれぞれ積極的（肯定的）な意見。
一方で子どもが欲しくない理由で、経済的負担と同率で「7.子どもを育てる自信がない」ことが挙がっている。今後の少子化対策や子育て施策の検討材料。
- ・人口減少対策→雇用問題と併せて子育てや保育・教育環境の整備が意向として強く出ている。
- ・今後三豊市が重点的に取り組むべき分野→市民意向調査と比較すると「観光産業・にぎわい創出」に重要性を感じている結果。「学校教育の充実」「子育て支援の充実」は市民意向調査でも比較的重要視されていた分野で、引き続き市として取組を行っていく重要度の高い分野。

2) 前期基本計画における進捗・達成状況等について

前期基本計画の進捗・達成状況については、主に次の2点から振り返りを行った。

- ①施策評価シート：各取組みの成果を自己評価し、課題を把握した上で今後の取組みを検討していく。
- ②まちづくりポイント（成果指標）達成状況：数値目標に対しての実績値を確認し、事業の見直しに繋げる。



【進捗・達成状況評価についての今後の活用】

- ・進捗・達成状況評価が低い取組みについて、その取組み自体の効果・原因・課題等を総合的に検証し、後期基本計画への後継を検討する。
- ・行政側の評価と市民の評価（市民意向調査等の結果）が乖離しているケースについて分析を行い、今後の取組み方についての見直しに繋げる。
- ・まちづくりポイント（成果指標）が取組みの効果を検証するものとして内容・数量ともに適切かの見直しを行う。

【市民意向調査における満足度の低い項目】

項目	進捗・達成状況
農業・林業	68.1
商業・工業	60.7
生活	71.7
水産業	55.0
スポーツ	68.8